

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第2週 (1/6-1/12) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	2週	1週	52週	51週
小児科	18	17	17	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	27	27	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市						千葉県 12/30-1/5 1週
		注意報	1/6-1/12	12/30-1/5	12/23-12/29	12/16-12/22	12/30-1/5 1週	
			2週	1週	52週	51週		
小児科	RSウイルス感染症		4 0.22	0 0.00	1 0.06	1 0.06	12 0.09	
	咽頭結膜熱	○	7 0.39	3 0.18	12 0.71	11 0.61	13 0.10	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	48 2.67	9 0.53	33 1.94	40 2.22	100 0.76	
	感染性胃腸炎		135 7.50	15 0.88	166 9.76	213 11.83	119 0.91	
	水痘		9 0.50	2 0.12	8 0.47	9 0.50	21 0.16	
	手足口病		1 0.06	0 0.00	8 0.47	3 0.17	3 0.02	
	伝染性紅斑		5 0.28	0 0.00	4 0.24	4 0.22	3 0.02	
	突発性発しん		9 0.50	1 0.06	9 0.53	2 0.11	8 0.06	
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	2 0.02	
	流行性耳下腺炎		1 0.06	0 0.00	0 0.00	1 0.06	4 0.03	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○★	549 19.61	60 2.22	603 22.33	540 19.29	1,886 9.02	
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	流行性角結膜炎		2 0.40	0 0.00	3 0.60	2 0.40	18 0.53	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	2 2.00	0 0.00	1 0.11	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	病原体の分離・同定等	結核	女性	80歳代	病原体等の検出等
結核	男性	50歳代	病原体等の検出等	レジオネラ症	男性	40歳代	病原体抗原の検出
結核	男性	70歳代	病原体等の検出等	アメーバ赤痢	男性	40歳代	組織検査による確認
結核	男性	80歳代	IGRA検査等	風しん	男性	20歳代	血清IgM抗体の検出

\*第2週は、結核5件(5)、レジオネラ症1件(1)、アメーバ赤痢1件(1)、風しん1件(1)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第2週のコメント

<咽頭結膜熱> 前週より増加し0.39となった。過去10年の同時期と比べると多い。

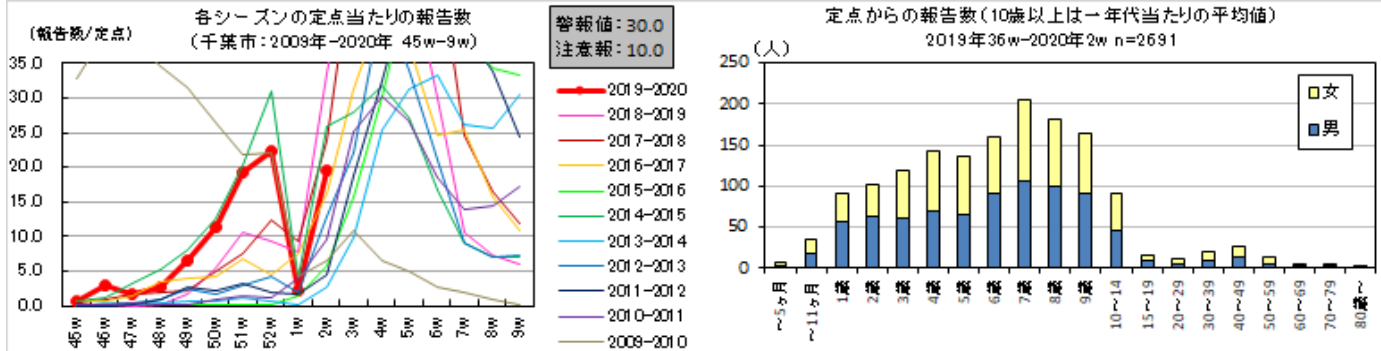
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.67となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<インフルエンザ> 前週より増加し19.61となった。流行発生注意報基準値を上回っており、過去10年の同期と比べるとやや多め。

■ トピック ■

＜インフルエンザ＞

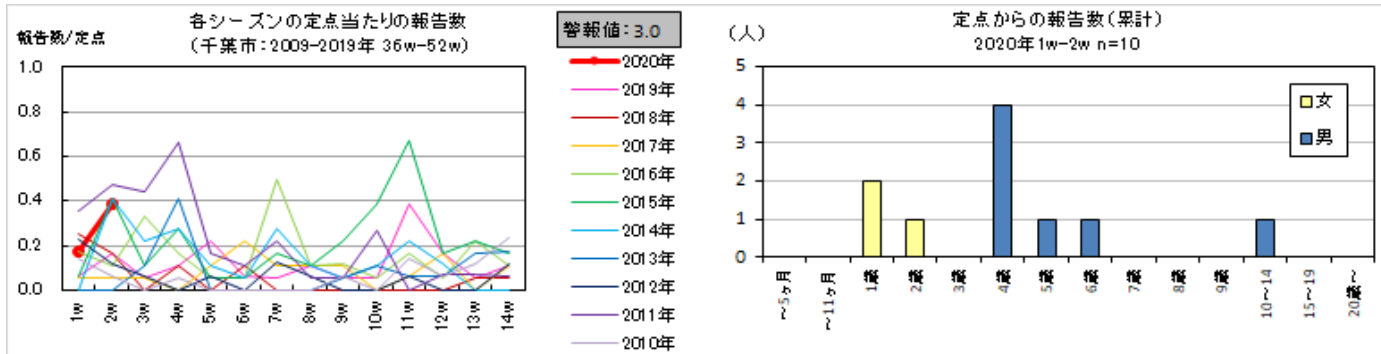
全国レベルの第1週の定点当たりの報告数は13.93となり、流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では秋田県、岐阜県、鳥取県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は9.02で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第2週は19.61となり、流行発生注意報基準値を上回っており、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。区別の発生状況は、中央区(38.60/定点)で流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回り最多で、同区の40歳代で最も多く、10歳未満では7歳で最も多くの報告がありました。今シーズンである2019年第36週から2020年第2週までの累積報告数は2691件で、性別では男性が51.1%(1375名)、女性が48.9%(1316名)となっており、年齢階級別では7歳(7.6%:204名)、8歳(6.7%:181名)、9歳(6.1%:163名)の順で多く、20歳未満が全体の69.4%(1868名)、10歳未満が全体の49.6%(1336名)となっています。



	第2週	市全体	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区
基準値超過		注意報	警報	-	注意報	注意報	注意報	注意報
過去10年の同時期との比較		やや多め	多め	やや少なめ	ほぼ平均	多め	やや多め	やや少なめ
昨年の同時期との比較		少ない	少ない	少ない	少ない	少ない	少ない	少ない

＜咽頭結膜熱＞

全国レベルの第1週の定点当たりの報告数は0.22となり、過去10年の同時期と比べると少ない状況となっています。都道府県別では鹿児島県、福井県、山形県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.10で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第2週は0.39となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、花見川区(1.50/定点)で最多で、同区の1歳で多く報告がありました。2020年第1週から第2週までの累積報告数は10件で、性別では男性が70.0%(7名)、女性が30.0%(3名)となっており、年齢階級別では4歳(40.0%:4名)、1歳(20.0%:2名)の順で多くなっています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第1週の定点当たりの報告数は0.74となり、過去10年の同時期と比べると少ない状況となっています。都道府県別では石川県、沖縄県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.76で、ほぼ全国レベルとなっています。千葉市の第2週は前週より増加し2.67となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(5.00/定点)で最多で、同区の6歳及び9歳で最も多くの報告がありました。今シーズンである2019年第36週から2020年第2週までの累積報告数は577件で、性別では男性が53.9%(311名)、女性が46.1%(266名)となっており、年齢階級別では6歳(15.6%:90名)、10歳代前半(13.3%:77名)、5歳(13.2%:76名)の順で多くなっています。

